

4. 施設改修計画

(1) 施設改修の考え方

「展示室を抜本的に改修する」

① 体感・没入型の導入展示で「たくさんの人が訪れたい博物館」へ

- エントランスやロビーでは、ナウマンゾウたちが集結し来館者を出迎える導入展示を整備します。
- 横須賀の自然と歴史について概略が把握できる没入感の高いガイダンスシアターを整備します。
- 施設入口を集約し、動線を明確化することで館内の回遊性の向上を図ります。

② 更新性の高い展示室を整備し、「なんども来たい博物館」へ

- 常設展示だけでは扱いきれない多様なテーマの展示に出会える特別展示室を増床します。
- オリジナルな特別展示の開催に加え、中～大規模の巡回展の誘致を行い、いつ来ても「新鮮」な視点と出会えるなど、館内における展示機能の強化・魅力化を図ります。

③ 豊富な博物館資料を積極的に公開

- 資料を適切に保存しながら、常に来館者が見学できる「収蔵展示室」を整備し、資料保存の重要性和博物館の役割についても理解できるようにします。

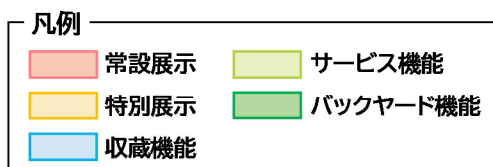
④ ユニバーサルデザインに対応した施設へリニューアル

- 誰もが安心して利用できるよう、ハード・ソフト両面からユニバーサルデザインのあり方を検討します。
(エレベーター増設、通路幅、照明、分かりやすい案内表示、だれでもトイレ、多言語対応等)

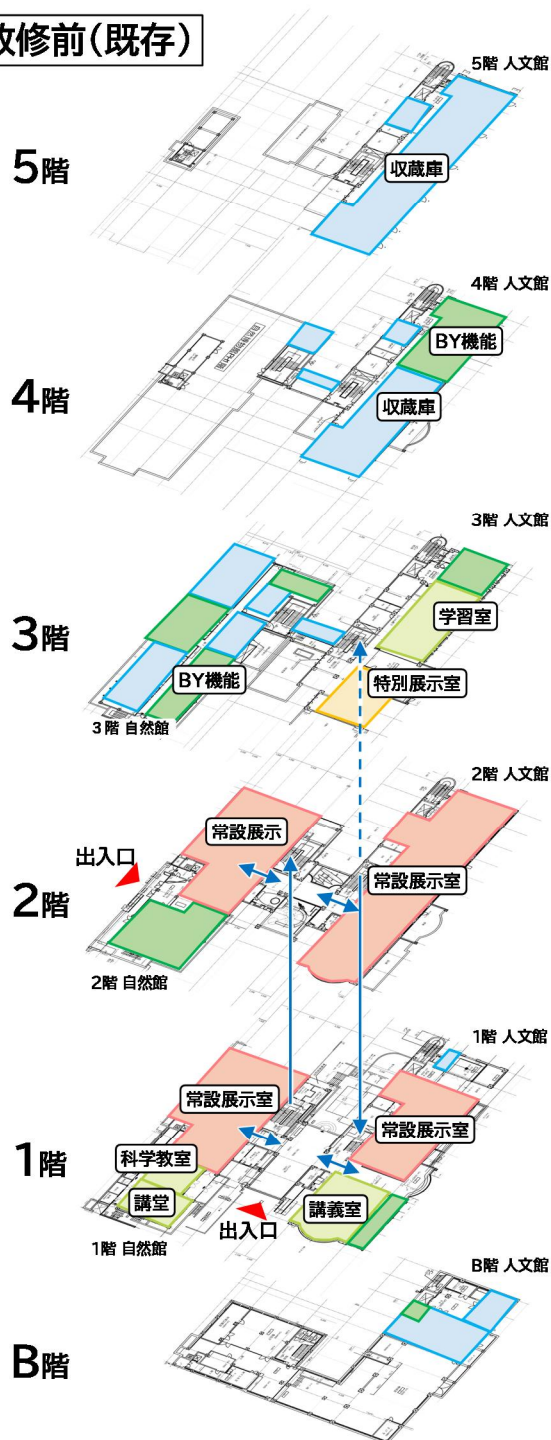
⑤ 限られた空間を有効に活用し、資料室の面積・容積を拡大

- 使用頻度の低い諸室や学芸員室、事務室等について、必要に応じて機能を整理・集約し、資料室の面積の拡大を検討します。
- 収蔵方法の見直しや効率化により、既存の資料室の収容能力を強化します。

(2) 全体構成



改修前(既存)

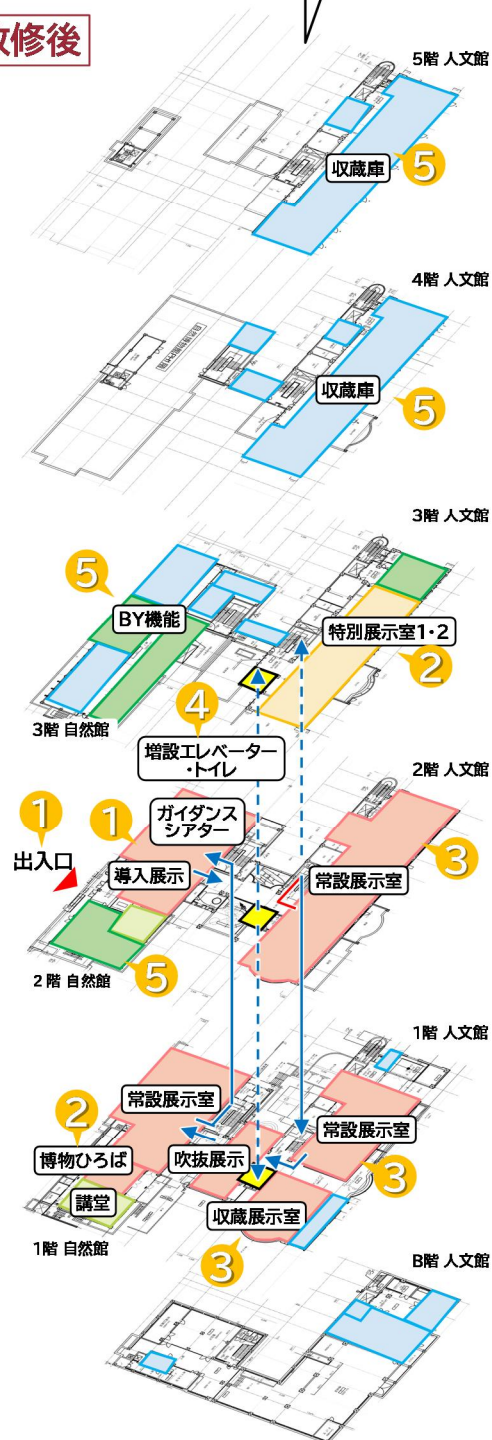


施設改修の考え方

展示室を抜本的に改修

- ① 体感・没入型の導入展示で「たくさんの人が訪れたいくなる博物館」へ
- ② 更新性の高い展示室を整備し「なんども来たいくなる博物館」へ
- ③ 豊富な博物館資料を積極的に公開
- ④ ユニバーサルデザインに対応した施設へリニューアル
- ⑤ 限られた空間を有効に活用し資料室の面積・容積を拡大

改修後



(3) 諸室計画(一覧表)

1階

※網掛け部分は特に充実させる機能

リニューアル後の室名	現在の室名 (変更有のみ)	面 積	概要・与条件など
収蔵展示室	講座室	169.0㎡	・収蔵資料の魅力や、博物館の重要な機能を伝える バックヤード見学スペース
常設展示室3		303.4㎡	・黒船来航前夜までの横須賀の姿を解き明かす展示室
常設展示室4		431.4㎡	・現在の日本と横須賀に大きく影響を与えた近現代 史をひもとく展示室
吹抜け部 展示スペース (オーシャン・アトリウ ム)	風除室 エントランス	133.5㎡	・三浦半島の海と船を遊びながら探検できる体験空間
博物ひろば	科学教室	64.7㎡	・科学実験や各種ワークショップ等を行う
エレベーター		—	・1-3Fに昇降可能なエレベーターを増設しバリアフリー に対応
トイレ		—	・エレベーター増設に伴い移設
講堂		86.1㎡	・内部打合せや小規模講座等に活用 ・団体利用時のガイダンスや昼食にも利用
ラウンジ		—	・昼食や休憩に活用
倉庫	講師控室 機械室	52.5㎡	・収蔵展示室新設に伴い、倉庫として活用
荷捌き室 廃棄物置場		19.9㎡	・大型資料の搬入出を行う
クリーニング室		29.6㎡	・搬入資料の処理を行う

2階

※網掛け部分は特に充実させる機能

リニューアル後の室名	現在の室名 (変更有のみ)	面 積	概要・与条件など
常設展示室1 (導入展示・シアター)	風除室 ロビー	375.3㎡	・ナウマンゾウが大集合して来館者を出迎える、エント ランス展示 ・ミュージアムの世界に没入する体感型の映像シアター
常設展示室2		640.8㎡	・豊富な実物資料をもとに、自然と人の関係性を考える 展示室
ショップ	事務室	55.5㎡	・ショップスペースを移設・拡張
エレベーター		—	・1-3Fに昇降可能なエレベーターを増設しバリアフリー に対応
だれでもトイレ	トイレ	—	・エレベーター増設に伴い新設
多目的 スペース	標本展示 コーナー	28.3㎡	・内部的な打合せスペースとして活用 ・学習相談室の機能も兼ねる
事務室	館長室 応接室	43.6㎡	・執務、打合せ、作業等を行う
中央管理室		—	・中央監視制御を行う ・清掃業者休憩スペースを兼ねる
更衣室	更衣室 トイレ	13.5㎡	—
印刷室	作業室	6.5㎡	—
倉庫	印刷室	14.2㎡	—

3階

※網掛け部分は特に充実させる機能

リニューアル後の室名	現在の室名 (変更有のみ)	面 積	概要・与条件など
第1特別展示室	特別展示室	122.8㎡	・多様なテーマの展示を開催できる、拡張可能な展示室 ・第2特別展示室と合わせて、大規模な巡回展を実施することも想定
第2特別展示室	第1学習室 第2学習室	179.9㎡	・多様なテーマの展示を開催できる、拡張可能な展示室 ・第1特別展示室と合わせて、大規模な巡回展を実施することも想定
エレベーター		—	・1-3Fに昇降可能なエレベーターを増設しバリアフリーに対応
トイレ		—	エレベーター増設に伴い移設
展示準備室		14.4㎡	・第1特別展示室で使用する展示物・資料の保管および展示準備を行う
展示準備室	相談室 人文科学研究室	94.9㎡	・第2特別展示室で使用する展示物・資料の保管および展示準備を行う
スタジオ・暗室		39.4㎡	・資料撮影等に活用
学芸員室	学芸事務室 自然科学研修室	114.5㎡	・執務、打合せ、作業等を行う
学芸共有スペース	図書室	56.3㎡	・作業・打合せ・大判出力作業などを行う。 ・CS事務室機能も兼ねる
保存処理室	光学実験室 天秤室 シャワー室 トイレ	23.6㎡	・分析や実験等を行う
工作室		32.6㎡	・液浸標本等の作製を行う
乾燥室	湯沸室	7.7㎡	・資料の乾燥処理を行う
調査研究室		53.3㎡	・乾燥標本の処理を行う
第1資料室		49.3㎡	・液浸標本を保管
第2資料室		68.1㎡	・化石・岩石・鉱物資料、貝類資料を保管
第3資料室		132.5㎡	・植物の乾燥標本を保管
第4資料室		53.3㎡	・昆虫の乾燥標本を保管
第5資料室	倉庫	22.7㎡	・貝類、骨格、一部の剥製等の乾燥標本を保管

4階

※網掛け部分は特に充実させる機能

リニューアル後の室名	現在の室名 (変更有のみ)	面 積	概要・与条件など
工作室		45.0㎡	・古文書写真等の保管・整理を行う
資料整理室		45.0㎡	・考古/民俗資料の保管・整理を行う
収蔵庫		25.3㎡	・歴史資料(古文書等)を保管
第1図書室	保存処理室	102.2㎡	・館内の書籍を集約して保管
第2図書室	倉庫	38.8㎡	・調査記録等を保管
考古資料室		291.8㎡	・考古資料全般を保管
生体資料室		34.0㎡	・液浸標本を保管

5階

※網掛け部分は特に充実させる機能

リニューアル後の室名	現在の室名 (変更有のみ)	面 積	概要・与条件など
第1民俗資料室		283.0㎡	・民具等、民俗資料を保管
第2民俗資料室		39.4㎡	・民具等、民俗資料を保管
人文資料室		45.0㎡	・人文資料を保管
第1歴史資料室		112.4㎡	・歴史資料(古文書・刀剣等)を保管
第2歴史資料室		45.0㎡	・歴史資料(古文書等)を保管

合計面積

種別	改修前(既存)面積	改修後面積
常設展示	1846.9㎡	2118.1㎡
特別展示 (企画展示機能)	122.8㎡	302.7㎡
サービス機能 (来場者が利用する共用部 廊下・階段・ショップなど)	1013.4㎡	599.8㎡
バックヤード機能 (博物館関係者が利用する専有部 学芸員室・事務室・準備室など)	3979.6㎡	3782.6㎡
収蔵機能	1492.9㎡	1652.4㎡
合 計	8455.6㎡	8455.6㎡

(4) 既存建物の課題と施設改修方針

施設の長寿命化を図るとともに(3)諸室計画を実現するため、課題に応じて必要な改修を行います。

① 機械設備

【空調設備】

(現状と課題)

- ・空調設備は中央空調方式が主だがダクト自体の劣化はほとんど見当らない。
- ・主要機器の熱源機器は更新されており現状問題なし。

(改修内容の想定)

→博物館資料の適切な収蔵環境を保つため、必要に応じ空調設備を追加し、人文館は個別空調化します。

【換気設備】

(現状と課題)

- ・ファン類は竣工時の機器が多く残っており、給排気用ファンは事後保全で対応可能であるが経年的には更新検討が必要(『資料編』「4. 給排水設備老朽度調査報告書」を参照。))
- ・人文館3～5階の職員用トイレは換気設備が未設置。
- ・1階自然館階段室トイレは壁換気扇から天井換気扇にトイレと共に改修済だが、入口ドア開放で給気を確保しているため、ドア常閉の場合は給気ルートの確保が必要。
- ・1階人文館女子トイレ換気量は60m³/hと不足。EF-14は設計風量450m³/h、男子トイレとの風量バランスが極端に悪く、VD・シャッターで風量調整が必要。

(改修内容の想定)

→保存処理室、第2図書室、地下倉庫は必要に応じ換気設備を追加します。

【制気口類】

(現状と課題)

- ・中央空調方式でアネモや給排気口等の天井取付け器具が多数あり、経年劣化による退色が見られる。

【ガス設備】

(現状と課題)

- ・計量法によるガスメーターは東京ガスにより無料で交換されるが、敷地内のガス配管更新・改修費は施設側の負担となる。
- ・点検も東京ガスでの対応によるが、緊急遮断弁のバッテリーは3年毎の交換が必要。

【給水設備】

(現状と課題)

- ・受水槽の撤去後、本管直結増圧給水ポンプで高架水槽へ給水に改修されている。
- ・直結増圧給水ポンプは年に1度以上の点検が義務付けられている。
- ・圧力タンク・制御装置・圧力センサー・逆流防止器等は5年程度で交換が必要。
- ・自然館は給水管の改修工事が行われ便所・廊下等露出配管となっている。

【排水設備】

（現状と課題）

- ・設計図では屋内污水管：鋳鉄管、屋内雑排水管：白ガス管、通気管：白ガス管、屋外排水管：ヒューム管、衛生器具接続は排水用鉛管となっている。
- ・現状ではトイレは改修され、それに伴い排水管の部分更新が行われているが、内視鏡検査の結果、污水管鋳鉄管は建設当時ものと推測され、雑排・通気の白ガス管は状況不明である。
- ・屋内は1～5階は污水・雑排水の分流、地階は雑排水・湧水・雨水は分流、敷地外放流は 污水・雑排水の合流、雨水は側溝排水となっている。
- ・排水管改修工事は建築など他工事との関連も多く、施工難易度が高く工事金額も大きくなる。
- ・現状では緊急性の問題はないと思われるが、内視鏡検査等により管内部を調査し、改修計画を立てることが望ましい。
- ・ピット内に水中ポンプが4組あるが、水が無い限り運転せず軸が固着し故障することが多く 注意が必要。
- ・水中ポンプは現状機種が不明のため、改修時に銘板を機械室配管に貼り付けることが望ましい。

【衛生器具設備】

（現状と課題）

- ・トイレは改修されているが、一部陶器は既存使用の上、水栓金具類のみ更新が行われている。
- ・温水洗浄便座・フラッシュバルブの故障箇所は早期に改善が必要。
- ・既存の衛生器具の型番については、設計図によるもので確認が必要。

【消火設備】

（現状と課題）

- ・自動火災報知設備・非常放送設備・誘導灯設備・消火器・連結送水管設備・連結散水設備については定期点検が実施され不具合箇所は都度対応し管理されている。
- ・誘導灯は蛍光灯を含め経年的に問題のある器具も設置されている。

（改修内容の想定）

→予防保全の面からも消防点検時に各器具の製造年月を含めた器具表作成が望ましいと考えられます。

② 電気設備

【受変電設備・幹線設備】

（現状と課題）

- ・受変電設備・引込高压ケーブルは更新されているため問題なし。
- ・幹線ケーブル類は竣工時のままであり、機器更新によるケーブル更新部とあるが図面上では確認できない。

（改修内容の想定）

→経年的には電気専門業者による精密検査を実施の上、改修計画を作成することが望ましいと考えられます。

【盤類】

（現状と課題）

- ・現状、目視上では各盤共錆の発生は見られず外観は良好だが、盤内のブレーカー類は消耗品のため、劣化すると大きな事故につながる場合があります注意が必要。

（改修内容の想定）

- 低圧部分の盤類は専門業者で絶縁測定などを実施の上、劣化状態を判断することが望ましいと考えられます。

【弱電設備】

（現状と課題）

- ・弱電盤類、TV共聴設備、防犯カメラ設備、電気時計設備、中央監視設備があるが、MDF・IDFは箱体で錆の発生もなく特に問題ない。

【照明器具】

（現状と課題）

- ・部分的にLED照明器具への更新箇所があるが、蛍光灯の令和9年（2027年）生産中止に伴い更新計画が必要。
- ・規制対象でない白熱灯器具もあるが、耐用年数によりLED照明器具への更新が望ましい。

（改修内容の想定）

- 今回リニューアルに伴い、全てLED照明器具へ更新します。

5. 展示リニューアル計画

(1) 展示リニューアルの考え方

展示改修に当たっては、第2章で整理したとおり、これまでの来館者層とともに新たな来館者層にも対象を広げていける展示展開を重視します。興味関心が薄い層の方や、来館したことのない方も想定しながら、ワクワクとともに感動する展示や、理解しやすい展示、何度来ても楽しめる展示により全体を構成していきます。

■来館者に感じてほしい3つのポイント

ワクワクする！

興味関心をかき立てる、
体験・体感型の目玉展示

思わず『行ってみたい、体験してみたい!』と感じてもらえるように、来館者の心を動かす展示や驚きと感動を提供する演出を行います。

横須賀らしいコンテンツを積極的に扱い、年齢や性別に関係なく、遠くに住んでいる方も来てみたくなるように工夫し、たくさんの人に訪れてもらえるようにします。

わかりやすい！

歴史・文化、自然をさまざまな
手法でわかりやすく伝える展示

横須賀の歴史や文化、自然について、内容ごとにさまざまな展示手法を用いて解説し、展示を巡りながら自ずと学び、考え、理解を深められるような展示を行います。

また、多言語対応やユニバーサル展示等により、どなたにも分かりやすい展示にします。

あたらしい！

来るたびに新鮮なテーマや
資料と出会える展示

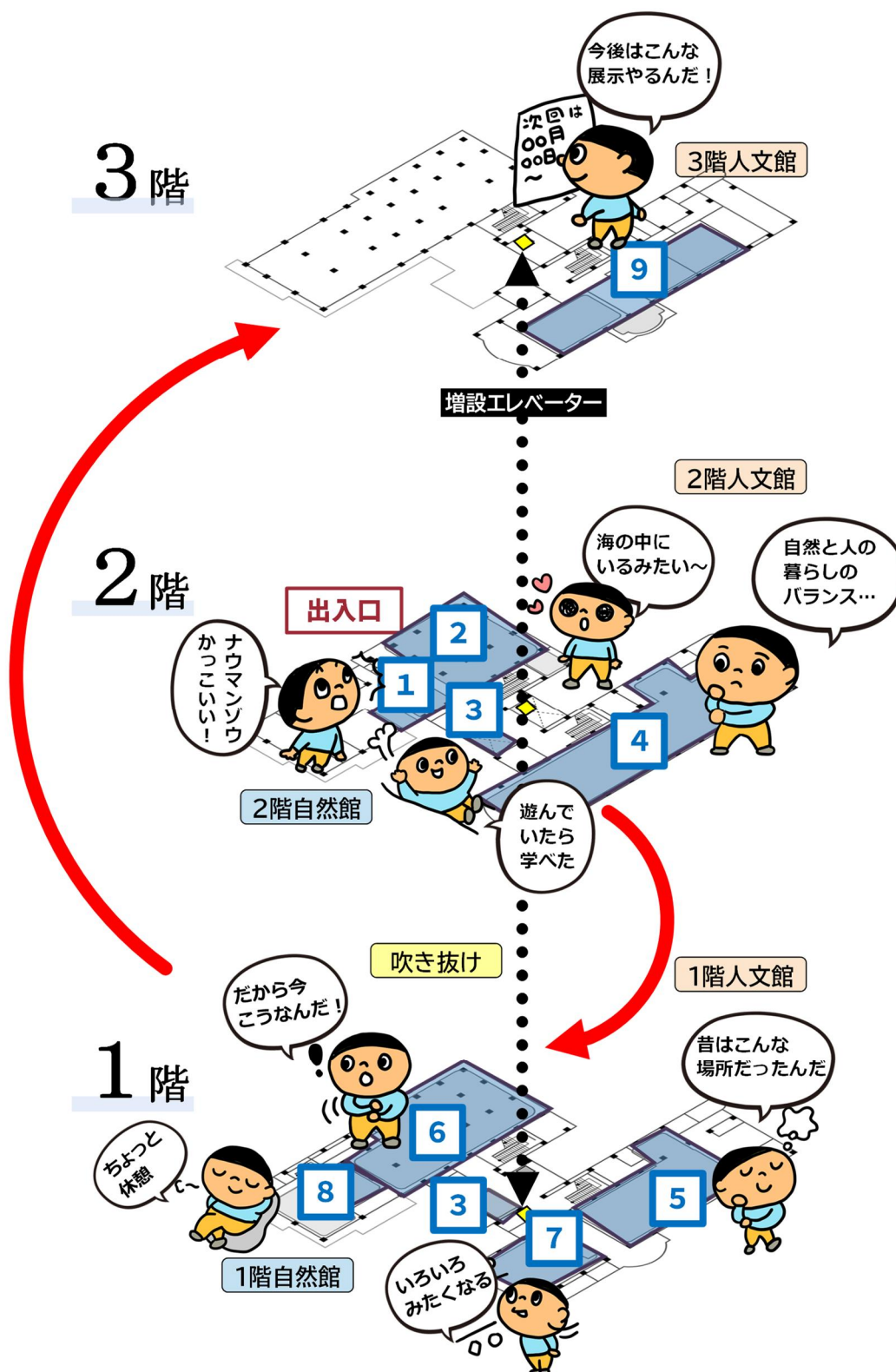
特別展示のボリュームを増やして、常設展示だけでは扱いきれない内容や、最新の研究成果、話題のテーマなどを紹介していきます。

また、常設展示の入れ替えを行い、訪れる方が数多くの博物館資料と出会える機会を作ります。

(2) 展示の全体構成(動線計画)

展示室を順番に巡るにつれて、来館者の期待感が盛り上がり、好奇心をかき立てられる体験のストーリーを生む動線計画とします。

■想定する動線と来館者の体験のイメージ



1 横須賀ワンダーゲート

ナウマンゾウが大集合して来館者を出迎えるエントランス展示



2 横須賀ダイナミック・シアター

ミュージアムの世界に没入する体感型の映像シアター



3 オーシャン・アトリウム

三浦半島の海と船を遊びながら探検できる体験空間



4 三浦半島の自然と暮らし

豊富な実物資料をもとに、自然と人の関係性を考える展示室



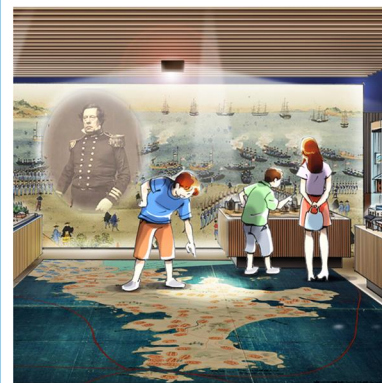
5 横須賀のあけぼの

黒船来航前夜までの横須賀の姿を解き明かす展示室



6 激動の横須賀

現在の日本と横須賀に大きな影響を与えた近現代史をひもとく展示室



7 収蔵展示室

収蔵資料の魅力や、博物館の重要な機能を伝えるバックヤード見学スペース



8 博物ひろば

団体受入・探究学習・休息などに使えるフレキシブルスペース



9 特別展示室

多様なテーマの展示を開催できる拡張可能な展示室



(3) 展示の構成案

1. 横須賀ワンダーゲート

ナウマンゾウが大集合して来館者を出迎えるエントランス展示

横須賀市が誇る貴重な資料であるナウマンゾウをエントランスで紹介します。これまでに全国で復元された全4体の骨格標本を一堂に集め、大きさや雌雄の違いを比較できる形で展示し、動くナウマンゾウ模型による演出で来館者に驚きと期待感を提供します。横須賀でナウマンゾウと同時代に生きた絶滅動物ヤベオオツノジカなどの骨格標本も展示します。

■ 展示構成

1. 横須賀製鉄所産のナウマンゾウ化石

ナウマンゾウ化石の第1号である、横須賀製鉄所建設中に発見された化石をレプリカで紹介。

2. ナウマンゾウの骨格標本と動く模型

これまでに復元されたナウマンゾウの全身骨格全4体をすべて展示します。

全4体の骨格を見られるのは世界で横須賀だけ！

横須賀から発見されたナウマンゾウ化石に基づく、動くオリジナルの模型(すかぞう)も展示。

3. 絶滅動物たちの骨格標本

ナウマンゾウと同時代に生きていたヤベオオツノジカなど絶滅動物の全身骨格を展示。来館者をナウマンゾウの時代へ誘います。



2. 横須賀ダイナミック・シアター

ミュージアムの世界に没入する体感型の映像シアター

"人と自然をめぐるダイナミズム"をテーマに、横須賀を知る常設展示のダイジェストを投影します。映像は床・壁の全面に映像を投影して、映像の世界に入り込むような演出を行います。座って観覧できる段状の席を設け、映像を使った講座やガイダンスにも使用できる場とします。

■展示構成

1. 常設展示のダイジェスト映像

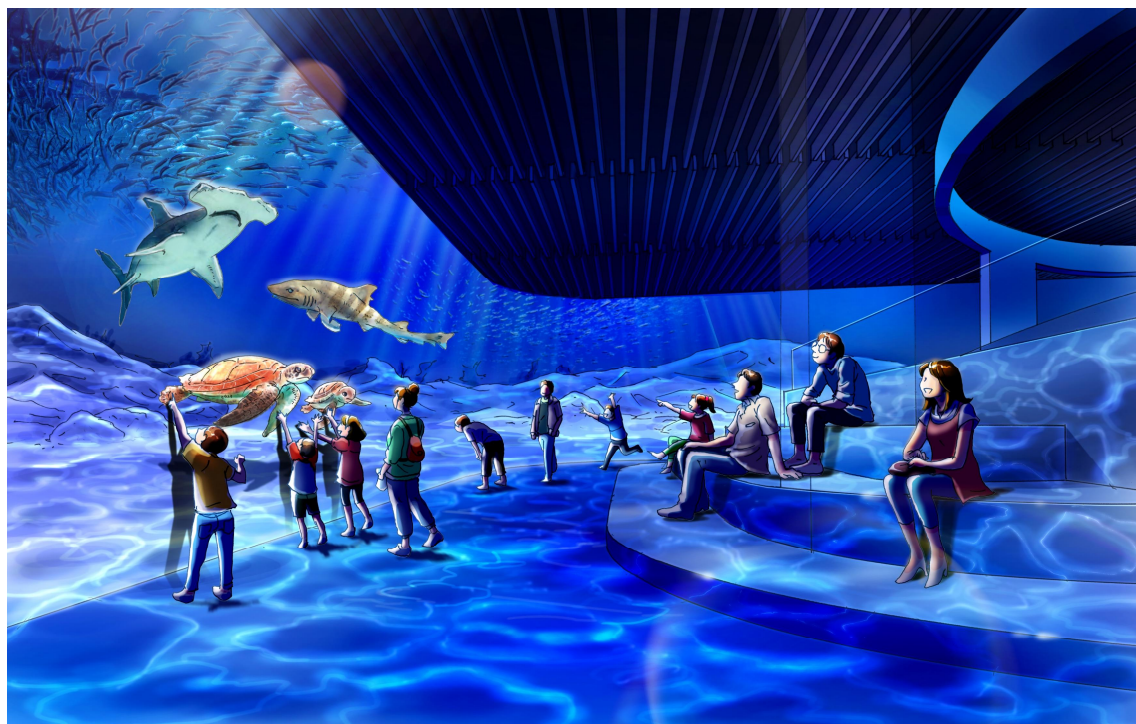
展示内容について自然と歴史を融合させた、没入映像を複数作成。これらを見れば横須賀の人と自然の概略が分かります。通常時はこれらの映像を自動的にローテーションして上映します。

2. 海の世界のインタラクティブ体験

海中の映像が映し出された壁面にタッチすると、センサーが反応して映像が変化する体験が可能です。常設展示のダイジェスト映像の間にインタラクティブ体験時間を設けます。

3. プレゼンテーションステージ

壁面にスライドを映しながら、学芸員が解説を行います。団体見学時のガイダンスとしてプレゼンテーションも可能です。



3. オーシャン・アトリウム

三浦半島の海と船を遊びながら探検できる体験空間

潜水艦に乗り込んで大きなスライダーから海の世界を巡ったり、さまざまな船の中を探検したりしながら、三浦半島の人や自然のおもしろさに触れられる学びの吹き抜け空間（アトリウム）。1～2階の吹き抜けを活用してダイナミックにスライダーと展示を展開します。館内を巡る際の休憩スポットとしても利用できます。

■展示構成

1. サブマリンスライダー

潜水艦のコックピットを入口に、2階から1階まで下りることができるダイナミックなすべり台。

2. 自然を遊び・学ぶ「ナチュラリウム」（自然吹き抜け空間）

海の生き物の骨格標本を見たり、海の自然をテーマにしたインタラクティブ展示や触れる展示で学べる空間。

3. 歴史文化を遊び・学ぶ「ヒストリウム」（歴史吹き抜け空間）

横須賀にまつわるさまざまな船の大きさに圧倒されたり、海の歴史文化をテーマにしたインタラクティブ展示や触れる展示で学べる空間。



4. 三浦半島の自然と暮らし

豊富な実物資料をもとに、自然と人の関係性を考える展示室

自然と、その中で営まれてきた人々の暮らしとの関係性について目を向ける展示室。地域に現存する自然の多様性や民俗・文化との調和に触れ、季節・時代による移ろいをたどりながら、自分なりの自然と暮らしの在り方を考えます。実際に地域に足を運んで自然と暮らしに触れてみたくなるきっかけを提供します。

■展示構成

1. 自然実物大図鑑

動植物標本や模型を展示ケースに一堂に並べ、三浦半島の自然（生物）の多様性を感じさせます。操作端末により、展示資料では体感できない動き・生態などが体験できる映像・CGが床面に投影されます。

2. 自然環境展示

海や里山、森などの環境別に、特徴的な自然環境を再現した展示コーナーを配置。三浦半島の自然環境を疑似的に巡ります。

3. 変化した暮らしの展示（古民家・民俗芸能）

高度経済成長期前後の暮らしの変化について古民家を中心に紹介します。一年を通して繰り返し移ろう自然と人の営みを比較しながら、自然を感じる生活の変化について理解を深めます。



5. 横須賀のあけぼの ～大地の誕生から黒船来航前夜まで～

黒船来航前夜までの横須賀の姿を解き明かす展示室

三浦半島の地質時代から、先史時代、古代、中世、近世までを扱います。「三浦半島のはじまりシアター」では大きな時代の流れと特徴を伝えます。「大地と人の成り立ち」地球科学資料や考古資料と向き合いながら、今とは異なる当時の環境や人々の生活の様子を解き明かしていきます。

■展示構成

1. 三浦半島のはじまりシアター

展示室に入って最初に現れる、解説映像が流れる没入型の真っ暗な空間。三浦半島の大地の誕生から近世までの歴史の概要とそれに関連する特徴を伝える映像を上映します。

2. 大地と人の成り立ち

大地の成り立ち、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世、近世に分けて各時代の資料を展示・解説します。一部に情景再現（竪穴住居など）を盛り込みながら、当時への想像を膨らませる展示を行います。また、旧石器時代の「落とし穴」、「縄文海進」、「貝塚」、「洞窟遺跡」、「三浦一族」など、重要なテーマに関して深掘りして展示・解説します。



6. 激動の横須賀 ～黒船来航から現在まで～

現在の日本と横須賀に大きく影響を与えた近現代史をひもとく展示室

ペリーの黒船来航以降、横須賀がどのように発展してきたかを、主な出来事や近代化と都市化の流れ、街の変遷等をひもときながら、「横須賀が日本の近代化の起点であった」「今の横須賀につながっている」ということをジオラマや映像を組合せながら、分かりやすく伝えます。

■展示構成

1. ジオラマシアター

近現代史を紹介する映像が流れると、それと連動する形で複数のジオラマが動き出します。床面には古地図や航空写真が描かれ、場所を確認し、時代の変化を複合的に演出します。

2. 横須賀のあゆみ

ペリー来航から横須賀製鉄所建設、関東大震災、終戦、現在までの歩みを展示・解説します。また、あまり伝えられてこなかった陸海軍施設の拡張、戦後のアメリカ文化、横須賀の生活文化史についても詳しく取り上げ、他都市には見られない横須賀の特色を紹介します。さらに横須賀が日本の近代化に与えた影響や都市化と市街地の変遷について伝えます。



7. 収蔵展示室

収蔵資料の魅力や、博物館の重要な機能を伝える バックヤード見学スペース

膨大な資料を適切に保管する資料室の様子を外から見学することができ、さらに学芸員が厳選した収蔵資料をガラス越しに近くで見ることができます。バックヤードの活動展示を通して、博物館における収集・保存の重要性についての理解を深めることができます。

■展示構成

1. おすすめの収蔵資料

学芸員おすすめの厳選した資料を、資料室のよく見える場所に配置し紹介します。資料は定期的に入れ替えます。

2. 博物館の役割解説

資料収集・保存という博物館が担っている重要な役割や、バックヤードでどのようなことを行っているかを、解説パネル等で紹介します。



8. 博物ひろば

団体受入・探究学習・休息などに使える フレキシブルスペース

団体利用での昼食場所、講演会での活用、日常的な学習場所、休憩場所、おしゃべりサロンなど、さまざまな利用ができるスペース。図鑑や歴史本、パズルや積み木、実物資料などの触れる展示、モニターによる横須賀の紹介など、知的好奇心をくすぐるアイテムも配置します。



9. 特別展示室

多様なテーマの展示を開催できる、 拡張可能な展示室

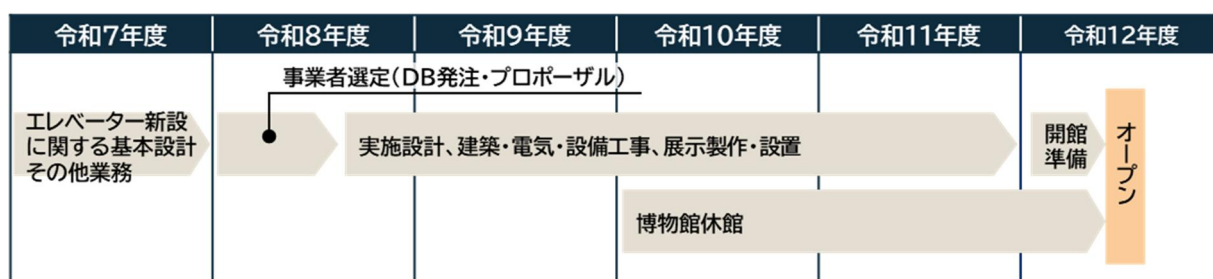
特別展示室は柔軟な面積調整が可能で、展示室を2つに分けた中小規模な展示から大規模な巡回展まで対応します。収蔵資料を用いた展示や、市民の皆さんの興味関心が高いテーマ、話題のテーマや学芸員の研究成果を扱った特別展示などを行います。



6. 今後について

(1) 整備スケジュール

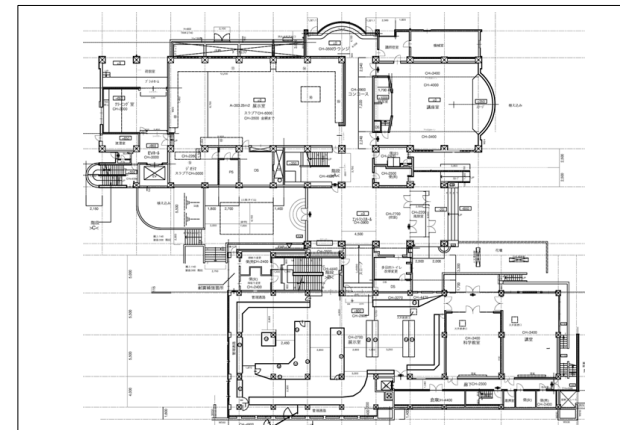
今後の整備スケジュールは、以下のとおりですが、状況に応じて変更する可能性もあります。



用語説明

※1	デジタル・アーカイブ	写真や映像、文書などをコンピュータで見られる形にして、長く残すこと。
※2	インタラクティブ	双方向のやりとりができること。利用者の操作に応じて内容や反応が変わる仕組みのこと。
※3	文化観光	その土地の歴史や伝統、芸術などを楽しむための旅や体験のこと。
※4	エコツーリズム	自然や生き物を大切にしながら楽しむ旅。
※5	グリーンツーリズム	自然や農業の体験をしながらゆっくり過ごす旅。
※6	JAPAN SEARCH (ジャパンスーチ)	文化庁などの国の機関が中心となって、令和2年から公開している、デジタル・アーカイブ。全国の博物館・美術館・図書館・文書館などが持っている本、絵、写真、歴史資料などを、インターネットでまとめて探することができる。
※7	SNS(ソーシャル・ネット ワーキング・サービス)	人と人がつながり、情報を発信したり共有したりできるインターネット上のサービス。
※8	アクティブラーニング	自分から考えたり話し合ったりして学ぶ、参加型の学び方のこと。ただ聞くだけでなく、主体的に学ぶことが大切とされている。
※9	レファレンス	本や資料、情報等を探す手助けをすること。
※10	オープンデータ化	公共のデータを、だれでも自由に見たり使ったりできるようにすること。

1階

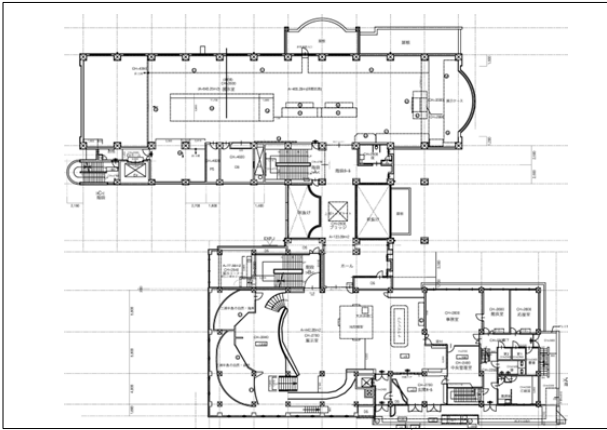
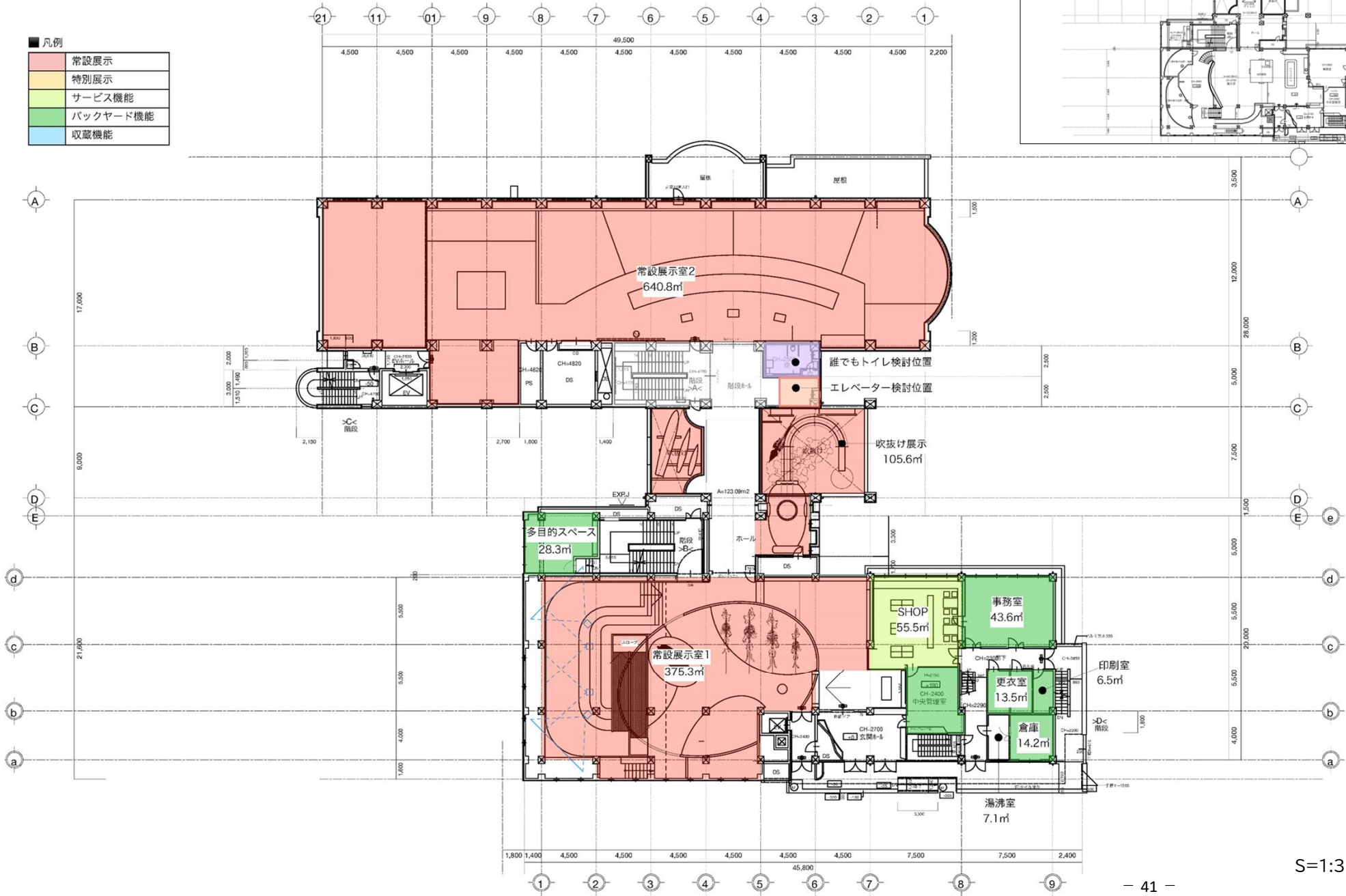


既存図面

2階

凡例

常設展示
特別展示
サービス機能
バックヤード機能
収蔵機能



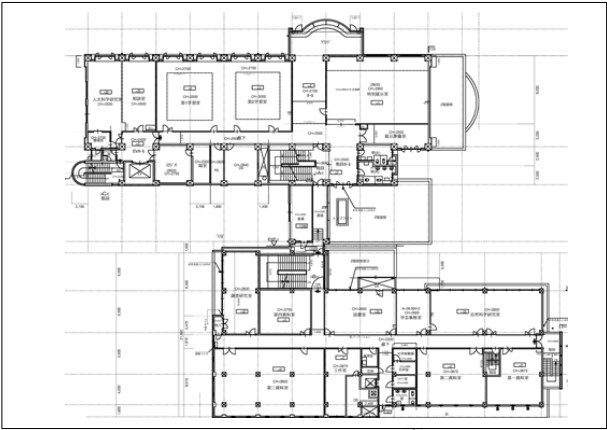
既存図面

S=1:300(A3)

3階

■ 凡例

常設展示
特別展示
サービス機能
バックヤード機能
収蔵機能



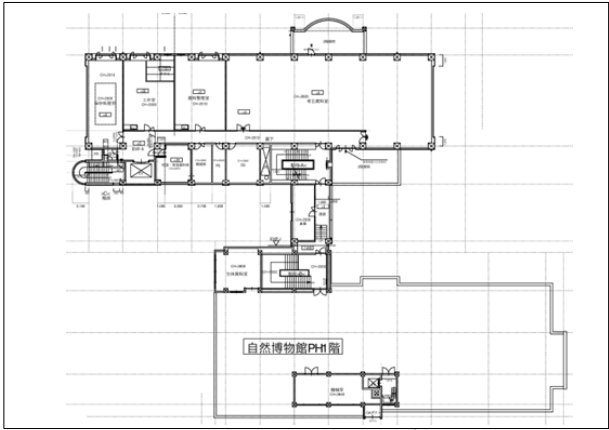
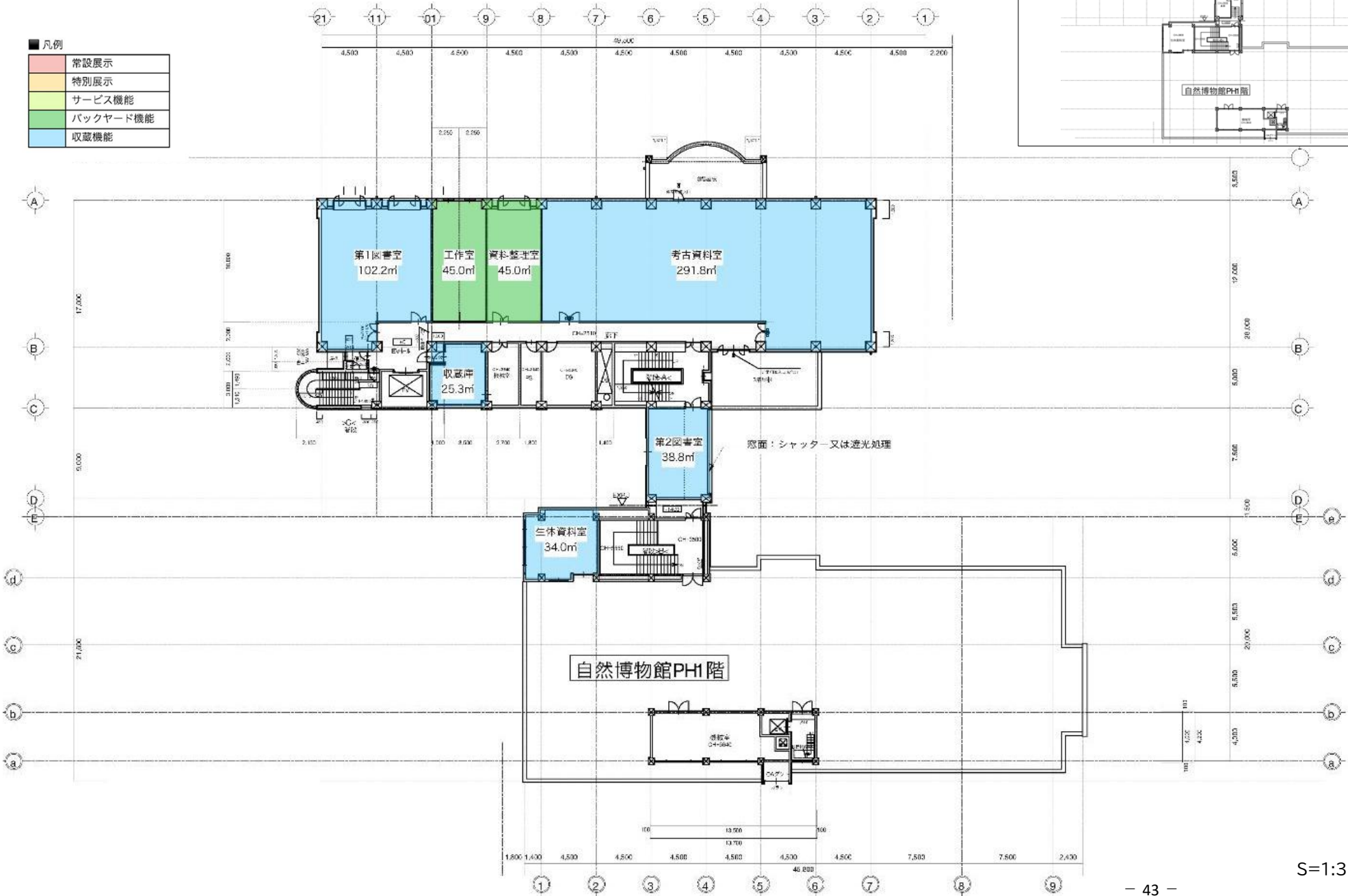
既存図面

S=1:300(A3)

4階

■ 凡例

常設展示
特別展示
サービス機能
バックヤード機能
収蔵機能

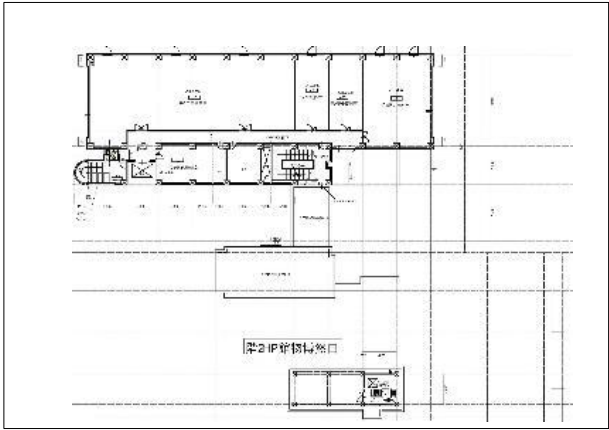
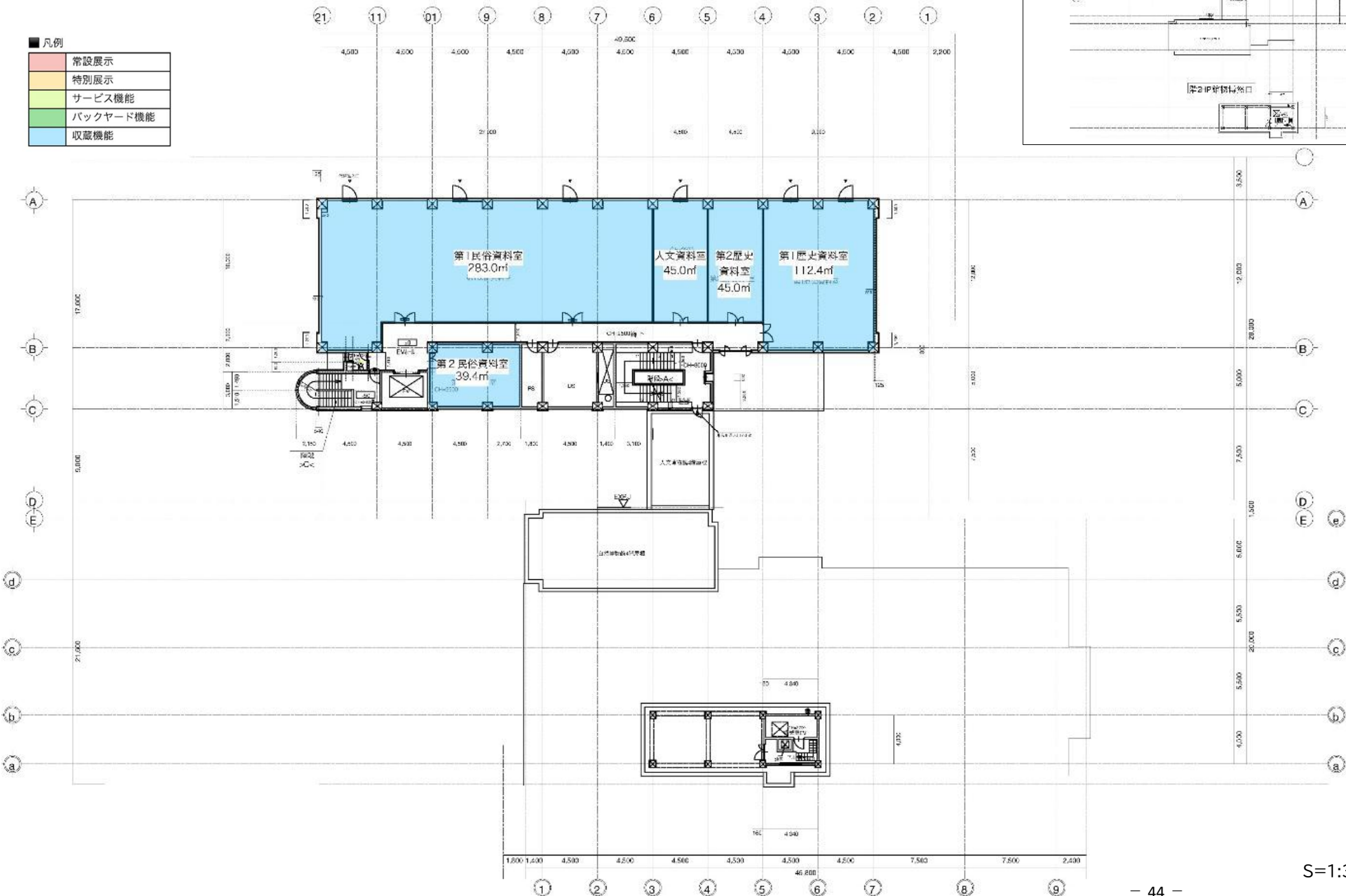


既存図面

5階

■ 凡例

常設展示
特別展示
サービス機能
バックヤード機能
収蔵機能



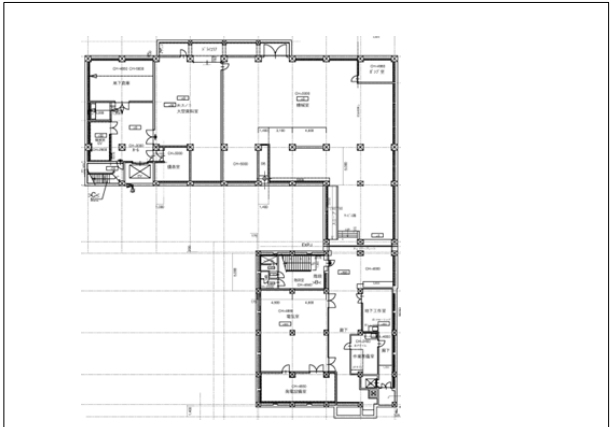
既存図面

S=1:300(A3)

B1階

■ 凡例

常設展示
特別展示
サービス機能
バックヤード機能
収蔵機能



既存図面

S=1:300(A3)

横須賀市自然・人文博物館リニューアル基本計画

令和7年(2025年)10月

問い合わせ先 横須賀市自然・人文博物館

住所 〒238-0016 横須賀市深田台95番地

電話 046-824-3688(代表) FAX 046-824-3658

URL <https://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp>